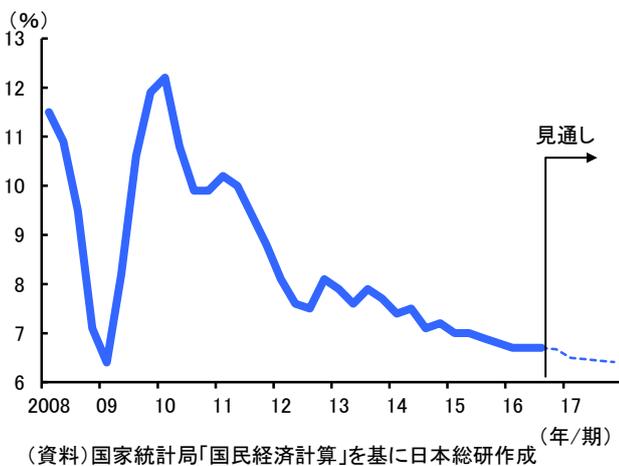


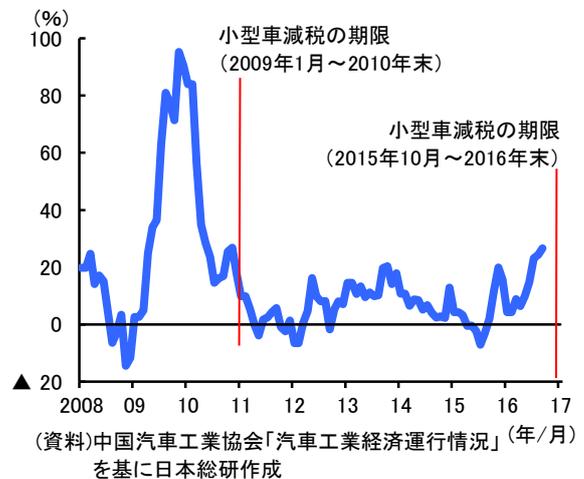
中国経済の底入れは期待薄

- (1) 中国では、2016年7～9月期の実質GDP成長率が前年同期比+6.7%と、2四半期連続で前の期から横ばいで推移し、景気減速の動きが一服(図表1)。
- (2) この背景として、以下の4点が指摘可能。
- ① 小型車減税措置終了前の駆け込み需要によって、自動車販売が大幅増加(図表2)。当局は2015年10月1日から2016年末まで、小型車の購置税を10%から5%に引き下げ。
 - ② 2014年11月以降の計6回の利下げを受けて、住宅販売が拡大(図表3)。企業が借入拡大に慎重な姿勢を保つなか、金融機関は住宅ローンの拡大に注力。
 - ③ 景気でこ入れのために、インフラ投資が拡大。本年1～9月のインフラ投資(除く電力)は前年同期比19.4%増と、2015年通年の前年比17.2%増から加速。
 - ④ シェードバンキングが拡大するなか、中小鉄鋼メーカーや他の中小企業、不動産開発企業の資金繰りが改善し、設備投資を拡大。
- (3) もっとも、このまま成長率が安定に向かう展開は期待薄。来年には購入刺激策の終了に伴い自動車販売の反動減が生じるほか、住宅販売も10月にローンの頭金比率引き上げ等の住宅価格抑制策が約20都市で打ち出されたこと等を受けて、頭打ちになる公算。さらに、輸出は弱い海外景気が続くもとで低迷し、固定資産投資も構造調整のため減速基調が続く見通し(図表4)。

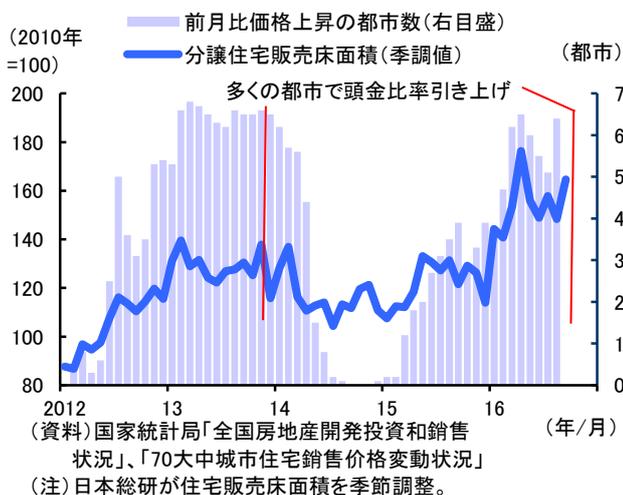
(図表1) 実質GDP成長率(前年比)



(図表2) 自動車販売台数(前年比)



(図表3) 住宅販売と価格上昇都市数



(図表4) 主要統計(前年比)

